

1. 基本情報						
事務事業番号	02437	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課長	福永 義二
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3052
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和33年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
目	08	図書館費		根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、施行規則	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)

- 市内に国分・隼人図書館、溝辺・横川・牧園・霧島・福山図書室の2図書館、5図書室が設置されている。公共図書館としての役割を果たすために多様な図書資料の整備に努め、幅広い年齢層のニーズに応じた図書の提供を行う。
- 未所蔵図書に対する購入希望状況、予約の状況等や図書の出版傾向(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)にも目を向け、計画的な購入、相互貸借等の活用で利用者の要望に対応し、図書資料の収集、整理、提供を行う。
- 図書館施設の適切な維持管理を行う。
- 自動貸出機・返却機・貸出ロッカー等やインターネット予約の利用促進を図り、「非対面型の貸出・返却・受取」を定着させ、利便性の向上と貸出者数・貸出冊数の増加を図る。
- 未返却本の督促を早め実施し、未返却者の抑止に繋げる。
- 閉架書庫の整理に努める。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)	令和6年度(見込)
ア 入館者数	人	195,521	196,000	210,052	210,000
イ 蔵書冊数	冊	395,546	400,000	390,536	385,000
ウ					

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)	令和6年度(見込)
ア 市民	人口	人	123,066	123,639	122,926	123,370
イ						
ウ						

意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)	令和6年度(目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館を除く)	人	94,234	95,000	91,744	95,000
イ 興味がある本を読める	貸出冊数(移動図書館を除く)	冊	395,419	400,000	382,032	400,000
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。

また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和4年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)

- 未返却本の督促作業を定期的に実施する。(特に初期段階での抑止)
- 便利なインターネット予約の周知に努め、「非対面型サービス」導入機種の活用促進を図る。
- 読書作業を進め、閉架書庫の整理に努め、併せて来館者がより利用しやすい開架書庫に改善できるように生動的に取り組み。
- 読書活動の推進に要する人員と図書資料を検討する。
- 国分図書館及び隼人図書館と、5ヶ所の図書室として異なる二つの図書館システムの統一を図る。今後の方針を決定する。
- 郷土誌編さんについて、今後の図書館、図書室の組織の在り方を検討する。

4. 事業費の推移

事業費	単位	3年度	4年度		5年度	6年度
		決算	当初予算	決算	当初予算	計画
国庫支出金	千円	0	0	13,500	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	47	63	48	353	53
一般財源	千円	62,871	62,923	67,787	65,768	66,068
事業費	千円	62,918	62,986	81,335	66,121	66,121

5. 令和4年度の実績及び成果

(1) 令和4年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和4年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> 各図書館(室)において、蔵書構成を考慮しながら図書資料等の収集、整理、提供等を行った。入館者数(R3/195,521人 R4/210,052人)貸出者数(94,234人 91,744人)貸出冊数(395,419冊 382,032人) 2図書館と5図書室で異なっていた図書館システムを統一した。(R5年3月) 受取ロッカーを市内全図書館・図書室に設置した。R3年度から設置していた国分図書館は、増設した。(R5年3月) 予約できることを周知した。(2図書館蔵書の予約数:窓口予約R3/5,440冊 R4/4,632冊、インターネット予約8,806冊 10,817冊、計14,246冊 15,449冊) ホームページを充実させた。(ホームページの利用数約1.5万人) 未返却本の督促を、早め実施した。 閉架書庫の整理を行った。(廃棄冊数R3/9,237冊 R4/12,833冊) 	<ul style="list-style-type: none"> 各図書館(室)が、蔵書構成を考慮・工夫しながら、新たな図書資料を収集・提供することができた。 図書館システムの統一で、国分・隼人図書館の蔵書のみ可能であったインターネットでの蔵書検索・予約が、市内全図書館・図書室の蔵書で可能となった。 受取ロッカー設置により、市内全図書館・図書室で休館日や閉館後にも予約本を受け取れるようになった。 「非対面型サービス(インターネット予約、ロッカー受取、ポスト返却)」の提供が、市内全図書館・図書室で可能となった。 ホームページの改善や、予約本の受取方法を改善するなど環境を整えたため、予約数が増加した。 早めの督促により、未返却者が減少した。

事務事業 番号	02437	事務 事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE (check) >

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	A	あらゆる分野の本を揃え、市民が必要とする情報を提供し、身近で本に触れ合える場として、市立図書館の重要性は今後も増していく。令和4年度末に7館室の図書館システムを統合し、利用者や職員にとって利便性が向上した。図書館運営に関わる人員は必要最小限であるため、これ以上の削減はできない。図書館は全ての市民が利用可能なため、公平・公正である。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)

(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (—)	拡 充					
		維 持				レ	
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持	拡 大	
		コスト投入（予算）の方向性					
(2) 令和5年度の改革改善の内容（取り組むべき課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄作業を進め、閉架書庫を整理し、併せて来館者がより利用しやすい開架書架とするため年次的に取り組む。 ・未返却本の督促作業を定期的実施する。（特に初期段階での抑止） ・便利なインターネット予約の周知に努め、活用促進を図る。 ・郷土誌編さんについて、今後の方針を決定する。 ・全ての図書館・室を「ひとつの図書館」として運用するため、組織のあり方を見直す。 ・蔵書検索機能を活用し、全図書館・室で複数保有する図書の整理を推進する。 						
(3) 令和6年度の方向性（具体的な取組）	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄作業を進め、閉架書庫を整理し、併せて来館者が利用しやすい開架書架の環境改善に努める。 ・全ての図書館・室において、「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律（読書バリアフリー法）」に基づくコンテンツ収集のあり方について検討する。 ・各地区の外国人住民の国籍傾向を調査し、その国の文化や習俗を理解できるような図書の各図書室への整備を進める。 						

8. 2次評価結果（担当部長評価）

(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (—)	拡 充					
		維 持					
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持	拡 大	
		コスト投入（予算）の方向性					
(2) 総評							

1. 基本情報						
事務事業番号	02438	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3053
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和43年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
目	08	図書館費		根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)

図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に、移動図書館車で本の巡回サービスを実施し、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりを支援する。

- ・国分図書館移動図書館車「しるやま号、しるやま号小型」、隼人図書館移動図書館車「すずかけ号」
- ・巡回箇所85箇所 ・配本所28箇所 ・貸出冊数 10冊以内 ・貸出期間 1ヶ月以内(次回巡回日まで)
- 一般巡回場所(各地域・住宅・団地等)・・・年間の移動図書館日程表を作成し、月に1回決まった時間に出向き利用者に貸出を行う。リクエスト(読みたい本)等の要望を聞き、次の巡回日に持参する。毎年巡回場所の見直しを行う。
- 小学校・・・年間の日程表により月に1回の巡回。個人のリクエスト(読みたい本)の要望にも応え、事前に教職員と連携をとり、調べ学習用の本を準備し、貸出を行う等工夫を行っている。毎年巡回学校の見直しを行う。小規模校では、おはなし会も実施している。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)	令和6年度(見込)
ア 巡回箇所	箇所	85	85	85	80
イ					
ウ					

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)	令和6年度(見込)
ア 市民	人口	人	123,066	123,639	122,926	123,370
イ						
ウ						
意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)	令和6年度(目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館分のみ)	人	7,298	8,500	6,674	7,000
イ 欲しい情報を得られる	貸出冊数(移動図書館分のみ)	冊	48,180	55,000	44,400	45,000
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。

また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和4年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)

- ・毎年の業務として、移動図書館の利便性を高めるために、巡回の場所や時間等を検討し、市民の身近な所で利用できるように改善し、工夫していく。そのためには、図書館から遠い地域への巡回を検討し、コースの設定を見直す。
- ・現在、巡回を行っている場所についての周知を工夫する。
- ・学校での巡回において学校・学校司書との連携を密に取る。また、調べ学習リスト等学習に役に立つ資料を提供できるように、準備をする。

4. 事業費の推移		単位	3年度決算	4年度当初予算	4年度決算	5年度当初予算	6年度計画
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	4,791	4,937	5,161	5,141
事業費		千円	4,791	4,937	5,161	5,141	5,141

5. 令和4年度の実績及び成果

(1) 令和4年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和4年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> ・巡回は、利用者のリクエスト(読みたい本)の要望に応えるなど工夫して行った。小学校の巡回は、小規模校を中心に市内全体で実施し、読書推進につながった。 ・巡回箇所85箇所(国分しるやま号:50か所・隼人すずかけ号:35か所) ・国分において効率よく巡回できるように、巡回場所を見直した。 ・移動図書館用の本の充実整備を進めた。 ・利用者の予約・リクエストを重視し、市民が求める資料を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からのリクエスト(読みたい本)の要望に応えるサービス等、知りたい情報・求めている本の提供を行い、利用者の利便性向上並びに本の充実を図り、読書推進につながった。

事務事業 番号	02438	事務 事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE (check) >

A 目的 妥当性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	A	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関であり、移動図書館はその一部である。市民への生涯学習支援を「いつでもどこでも」実現できる手段として、その機動力を生かし、市が実施すべき事業である。今後も市民からの要望等を考慮しながら、巡回場所について調査・検討し、市民の利便性のさらなる向上を図る。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)

(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (果)	拡 充					
		維 持				レ	
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大
		コスト投入（予算）の方向性					
(2) 令和 5年度の改革改善の内容（取り組むべき課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の業務として、利用者にとって利便性のある巡回の場所や時間等を検討し、市民の身近な所で利用できるように改善し、工夫していく。学校は小規模校を中心に、また一般の巡回場所は、より図書館から遠い地域への巡回を検討し、コース設定を見直していく。 ・現在、巡回している場所についての周知を工夫する。 ・学校への巡回では、学校・学校司書との連携を密に取る。また、調べ学習リスト等学習に役に立つ資料を提供できるように、準備する。 ・移動図書館車の適切な維持管理を行う。 						
(3) 令和 6年度の方向性（具体的な取組）	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊等の購入等、移動図書館の蔵書の充実を図り、巡回を行いながら広く市民が「いつでも・どこでも・だれでも」気軽に利用できるサービスを実施する。また、このサービスについて、市民へ広く周知する。 ・移動図書館の利便性を生かし、「遠くの図書館に来ることが困難な市民」に対しての図書館サービスを拡大できるよう、巡回箇所の見直し・コースの見直しに計画的に取り組む。 ・市民のリクエスト（読みたい本）等の要望に応えられるような体制を作り、身近な図書館としての機能を発揮できるように改善していく。 ・移動図書館車の適切な維持管理に努める。 						

8. 2次評価結果（担当部長評価）

				評価者	職・氏名		
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (果)	拡 充					
		維 持					
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大
		コスト投入（予算）の方向性					
(2) 総評							

1. 基本情報						
事務事業番号	02440	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3052
予算科目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和33年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
	目	08	図書館費		根拠法令・条例等 図書館法第3条、子どもの読書活動の推進に関する法律等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細を記述)

幅広い年齢層の多様な読書行事等への参加を通じて、読書への関心、様々な学習への興味を喚起することにより、学習活動の推進を図る。

- ・おはなし会
 - 各図書館(室)で、乳児、幼児、児童を対象とした、図書館職員やボランティアグループによる定例おはなし会の開催。
- ・読書イベント
 - 各図書館(室)で地域の方を対象に、読書まつり等のイベント、おはなし会、一日司書体験等の開催や、出張おはなし会の開催。
- ・夏休み特別講座
 - 昆虫採集教室、植物採集教室、植物名づけ会、手づくりおもちゃ教室の開催。
- ・その他開催行事等
 - ブックスタート、子ども読書の日、こどもの読書週間、読書週間の開催と、緑陰読書、きりしま読書会の開催支援。
- ・図書館だより等の作成・配布

活動指標(事務事業の活動量)		単位	令和3年度(実績)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)	令和6年度(見込)
ア	行事の開催回数	回	111	120	156	160
イ						
ウ						

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(見込)	令和5年度(見込)	令和6年度(見込)
ア	市民	人口	123,066	123,639	122,926	123,370
イ						
ウ						
意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	令和3年度(実績)	令和4年度(目標)	令和5年度(目標)	令和6年度(目標)
ア	読書に興味を持ってもらう	読書に興味を持った参加者数	2,757	3,000	2,931	3,100
イ						
ウ						

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和4年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)
 ・毎年開催される読書行事の内容の見直しを行い、多様な読書行事に多くの市民の方に参加していただくため、開催回数が減少しないように努め、読書推進を図る。(夏休み行事「昆虫のおはなし」を「昆虫採集教室」に変更し、城山公園で開催する。)
 ・読書行事の参加を促すために、より多くの市民に広報できるように工夫し、広報誌やホームページ等の周知を徹底する。
 ・霧島市子ども読書活動推進計画(第4次)の第4次策定に向けた準備を行う。
 ・ブックスタートからその後の読書活動につながるよう、赤ちゃん絵本や、福祉コーナー(大活字本、朗読の、点字、LLブック)の充実を図り、ホームページ等で広く市民に周知する。

4. 事業費の推移

事業費 投入量	財源内訳	単位	3年度決算	4年度当初予算	5年度当初予算	6年度計画
	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	625	619	566	570
事業費	千円	625	619	566	570	

5. 令和4年度の実績及び成果

(1) 令和4年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和4年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<p>各種読書推進行事等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート(12回、1,249人参加)保健センターと連携し、新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催した。 ・おはなし会(113回、1,080人参加)新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いたため、昨年度より多く実施することができた。 ・夏休み特別講座(4回、82人参加)参加人数を制限して実施した。 ・緑陰読書(4回、61人参加) ・読書イベント(14回、411人参加)感染症対策を講じ、縮小して実施した。 ・きりしま読書会(9回、48人参加) ・図書館だより等の発行(国分12回、横川6回、牧園10回、霧島12回、福山12回) ・感染症対策として令和2年3月から実施した、貸出冊数5冊から10冊への変更を引き続き行った。(国分、隼人、牧園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いてきたため、昨年度よりおはなし会や行事の回数や人数を増やすことができた。 ・感染症対策を講じて実施したブックスタートでは、乳児とその保護者にとって本が大切であるとの認識が浸透したことで、図書館利用やおはなし会への参加につながった。

事務事業 番号	02440	事務 事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE (check) >

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	A	図書館法及び子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、読書推進を自治体が行うこととされているため、市が本事業を行うことは妥当であり、目的に結びついている。また、そのためには、図書館（室）とボランティアグループ等が連携をし、幅広い年齢の方が参加できる読書行事を開催することで、市民に図書館が身近な施設と感じてもらい、その結果、現状値の向上が期待できる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)

(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (成 果)	拡 充						
		維 持					レ	
		縮 小						
		休廃止（統合含む）						
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大	
コスト投入（予算）の方向性								
(2) 令和 5年度の改革改善の内容（取り組むべき課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催される読書行事の内容の見直しを行い、多様な読書行事に多くの市民の方に参加していただくため、開催回数が減少しないように努め、読書推進を図る。 ・読書行事の参加を促すために、より多くの市民に周知できるように工夫し、広報誌やホームページ等での掲出を徹底する。 ・霧島市子ども読書活動推進計画の第4次策定に向けた準備を行う。 ・ブックスタートからその後の読書活動につながるよう、赤ちゃん絵本や、すくすくコーナー（子育て世代向け）の充実・周知を行う。 ・福祉コーナー（大活字本、朗読CD、点字、LLブック）の充実を図り、ホームページ等で広く市民に周知する。 							
(3) 令和 6年度の方向性（具体的な取組）	<ul style="list-style-type: none"> ・読書行事の内容を見直し、幅広い年齢の方に参加していただけるよう実施方法の工夫や改善を行い、魅力ある行事内容の充実を努める。 ・霧島市子ども読書推進計画の第4次策定に取り組み、更なる読書推進につなげる。 ・ブックスタートからその後の読書推進として、赤ちゃん絵本や、すくすくコーナー（子育て世代向け）の充実・周知を行う。 ・福祉コーナー（大活字本、朗読CD、点字、LLブック）の充実やバリアフリーサービスを、ホームページ等で広く市民に周知する。 							

8. 2次評価結果（担当部長評価）

(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 (成 果)	拡 充					
		維 持					
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大
コスト投入（予算）の方向性							
(2) 総評							

